

2017年のイースター、おめでとうございます。



宮下氏の丹精された「ハッカクの花」

横浜港南台教会の礼拝に参加しました。「天と地の交流」と題する説教を聞き、み言葉を心に留めました。この日洗礼を受けられた宮下氏は、今は亡き奥様を、赤い車に乗せて、日曜日ごとに礼拝に送り届けるために教会の玄関前まで、運んでこられていました。

よく、「教会は敷居が高くて」と言われる方がおられます。そのため、港南台教会は、敷居がない、段差がない設計になっています。宮下氏にとっても目に見えない敷居

があったのかもしれませんが、彼は退職後、シルバー・センターで植栽に取り組み、いつの間にか教会の外、玄関前のクリスマス・ツリー用のゴールド・クレストの手入れをしてくださるようになりました。ある台風の夜、4、5mの高さになった木は強風で倒れ、歩道の電柱に寄りかかった状態になりました。早速駆けつけて下さって、処置して下さいました。「妻の大事な教会ですから」と言われ、教会のために労を惜しまず、働いて下さいました。

最愛の奥様は天に帰られ、教会墓地に納骨されました。それ以来、彼の行くべき所は「妻の大事な教会」になりました。礼拝では奥様の座られた場所にいつも座られています。イースター礼拝の説教「天と地の交流」を宮下氏は実感なさっておられるに違いありません。

聖書ではイエス様の亡骸を納めた墓地に香油を持って行ったマグダラのマリアたちは、「驚くことはない。あなたがたは十字架につけられたナザレのイエスを捜しているが、あの方は復活なさって、ここにはおられない。御覧なさい。お納めした場所である。さあ、行って、弟子たちとペトロに告げなさい。『あの方は、あなたがたより先にガリラヤへ行かれる。かねて言われたとおり、そこでお目にかかる』と。」(マルコ 16:6)と告げられました。イエス様がおっしゃっていた言葉が現実となったことは、信じられないほどの恐ろしさでした。墓の中に、イエス様の亡骸を求めることは、過去を求めて生きることでしょう。マリア達は墓の中にイエス様を求めることはできないということを知ったのです。どこに求めたらいいのか。それはガリラヤであると示されました。そこはイエス様が苦しむ者、悲しむ者と共に「神の国」を生きられた、身近な場所でした。マリア達はそこで永遠に変わらないイエス様の言葉を再び聞き、共にいて下さることを実感したのでしょう。それは現在と未来に生きる事であり、永遠に目を向けることです。

この日の夕べ、夫の76歳の誕生日を家族集まって、お祝いしました。ガーデニングで育てた黄色いチューリップと白い薔薇の花束をお嫁ちゃんから、赤ワインを息子から、白ワインをドイツで暮らす姪夫妻から贈られて、楽しい夕餉になりました。孫たちも教会へ繋がっています。私たち夫婦にとって、子や孫たちへ伝えるべき、残すべき最大の宝は信仰です。

主イエス・キリストの恵みに生かされていることを喜び、感謝でいっぱいです。

